

全国足利氏 ゆかりの会

全国足利氏ゆかりの会
会長 足利市長 早川 尚秀
事務局 足利市産業観光部
観光まちづくり課
TEL. 0284-20-2165
FAX. 0284-20-2207
e-mail:kankou@city.ashikaga.lg.jp
HPaddress <http://www.ashikagauji.net>

会報



鎌阿寺太鼓橋

- 令和三年度総会報告
- 情報提供
- 新発見!足利直義御教書について(紹介)
- 足利氏関連書籍紹介
- 足利市・法楽寺で浄土式庭園の遺構を確認
- お悔やみ・編集後記





令和三年度総会報告

令和三年度全国足利氏ゆかりの会総会

の会総会については、京都府亀岡市開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、総会・懇親会、移動を伴う奉告祭やエクスカーションの実施は困難であると判断し、令和二年度同様、「書面決議」による開催となりました。

議案第1号「役員改選について（案）」、第2号「令和二年度事業結果について」、第3号

「令和二年度収支決算について」、第4号「令和三年度事業計画（案）」、第5号「令和三年度収支予算（案）」、について、原案のとおり、提出書面（全会一致）により承認、決定されました。

また、令和三年度総会開催地についても、亀岡市様に次年度スライド開催について了承を賜わりましたので、併せて書面に

て報告させていただきました。そして、令和三年度全国足利氏ゆかりの会総会（書面決議）開催に際し、各会員様よりお寄せいただいたご意見等について紹介いたします。

会員からのご意見

①ホームページ更新料

6万6000円は高すぎ。無料にして事務局が必要な情報を加えればよい。

②本年、急に、タオルハンカチが多量に送られてきて戸惑いました。次年度支出は、本年のふりかえりを経て、決断していただきたないと感じています。

2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送に合わせて、その舞台である鎌倉市に大河ドラマの世界観が楽しめる大河ドラマ館が開館中。ぜひご来館ください。

足利氏は、源頼朝と同じ源氏の棟梁源義家の子孫にあたり、足利氏2代目義兼は源平合戦以降、頼朝に従つて平氏追討や奥州合戦で活躍し、鎌倉幕府の樹立に貢献し、鎌倉殿こと源頼朝を支える有力御家人となりました。足利氏三代義氏も北条氏の側近として鎌倉幕府を支えていました。

お寄せいただいたご意見を踏まえ

(事務局からのご報告)

このたびは貴重なご意見等をお寄せいただきましたご意見を

踏まえまして、事務局から左記のとおりご報告を申し上げたいと存じます。

今後につきましても、事業計画の詳細や進捗状況等の報告に努めてまいりたいと存じます。引き続き当会の運営につきまして、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まず、①のご指摘につきましては、今回はパンフレットデータ差し替えに伴い、ホームページデータを大きく差し替えたことから、例年よりも経費が増えた結果となりました。

また、ホームページを維持していくためには、レンタルサーバー管理料という固定費も継続的に発生いたします。今後につきましては、ホームページの維持経費及び新規SNS等の運用も含めて、頂戴いたしましたご意見を踏まえ、執行予算の適宜見直しを行いながら会計処理を進めでまいりたいと存じます。

また、②のご指摘につきましては、設立35回記念として各会員の皆様に当会のPR活動用としてノベルティを作成いたしましたが、前年度の総会も書面決議開催となり、各会員の皆様へ作成の経過や報告等が十分に行き届かない面がありましたこと

情報提供

2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送に合わせて、その舞台である鎌倉市に大河ドラマ館が開館中。ぜひご来館ください。

足利氏は、源頼朝と同じ源氏の棟梁源義家の子孫にあたり、足利氏2代目義兼は源平合戦以降、頼朝に従つて平氏追討や奥州合戦で活躍し、鎌倉幕府の樹立に貢献し、鎌倉殿こと源頼朝を支える有力御家人となりました。足利氏三代義氏も北条氏の側近として鎌倉幕府を支えていました。



全国足利氏ゆかりの会 会報

このようなことから、当会としても、今回の大河ドラマに注目です。



大河ドラマ館 外観

〈住所〉

神奈川県鎌倉市雪ノ下2の1の53
鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム

【鶴岡八幡宮境内】

〈休館日〉

無休（展示替え休館日除く）

〈料金〉

大人 1000円（高校生以上）
小人 500円（小・中学生）

〈割引対象者〉

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持されている方

〈無料対象者〉

小学生未満の未就学児、右記障害者手帳所持者の介護者1名

*大河ドラマ館入館時にお渡しするパンフレットの提示で鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館へ、平常展 各大人400円
各 小人150円
〔2022年4月1日現在〕
各1回無料で入場できます。
(2023年3月31日まで)

「鎌倉殿の13人大河ドラマ館」

〈期間〉

2022年3月1日（火）
2023年1月9日（月・祝）

〈開館時間〉

午前9時30分～午後5時
（最終入館 午後4時30分）

*鶴岡八幡宮の祭事等に合わせて変動する場合があります。



新発見！ 足利直義御教書についての紹介



大河ドラマ館 内観

室町幕府を尊氏・直義派に分裂させた。ついには観応元年（1350）10月、両派は武力衝突に及んだ（観応の擾乱）。翌2年2月には、尊氏・師直が摂津族は直義派によって殺害された。7月末以降、尊氏・直義兄弟は再び決裂し、尊氏は駿河（静岡県）薩埵山で直義を破り、直義は降伏した。

最近、観応の擾乱期に直義が発給した文書が新たに発見された。観応2年5月12日付で直義が自派の畠山義深を尾張（愛知県）守護に任じた守護補任状である。尾張守護は、義深以前は高師直の兄弟師泰が在職し、観応2年10月以降には土岐頼康がある。尾張守護は、義深以前は在職していたことが確認される。

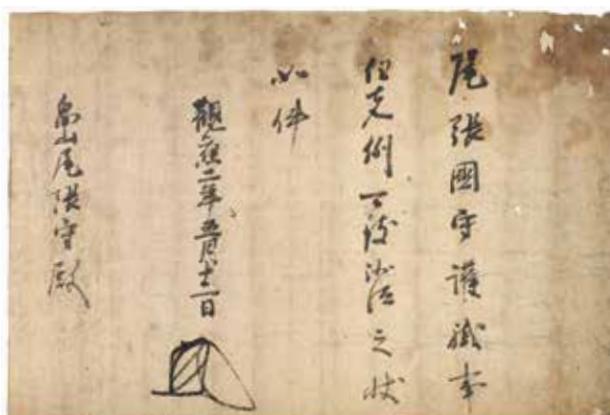
通説では、師泰が直義派に殺害されて以降の尾張守護は同じく尊氏派の頼康が務めたとされる。しかし、今回の発見で、尾張守護には師泰と頼康との間に直義派の畠山義深が就任してい

室町幕府が成立した当初、将軍足利尊氏が守護の任免、恩賞の充行など武士を統率する軍事的な支配権を握り、弟直義は所領の安堵や裁判などの政務を担つた。つまり、幕政は尊氏と直義の二頭政治として共同で運営された。

しかし、次第に尊氏の執事高師直と直義との対立が表面化し、



たこと、そして直義が守護補任権を掌握していたことが明らかとなつた。この時期の前後に少なくとも11か国以上で守護が尊氏派から直義派に代わつたとみられていることから、直義自身が諸国守護に補任した可能性が高いといえる。



足利直義御教書(栃木県立文書館蔵)

義深が尾張守護に補任された観応2年5月は、尊氏・直義兄弟が講和してまもなくの時期であることから、守護補任権は講和後に尊氏から直義へと移譲されたと考えられる。また、この時期直義は守護補任権に加え、

実質的な恩賞充行権さえも握っていたとの指摘もある。

尊氏との講和後、直義は兄尊氏との骨肉の争いや実子の夭逝などが原因で無氣力に陥つたとみられてきた。しかし、この時期直義はそれ以前には尊氏の専政運営に主体性を發揮していたと考へられよう。

て、尊氏との講和後の直義は幕政運営に主体性を発揮していた可能性が高いのである。したがつて、尊氏との講和後の直義は幕政運営に主体性を発揮していたと考へられよう。

賞充行権を手中に収めていた可能性が高いのである。したがつて、尊氏との講和後の直義は幕政運営に主体性を発揮していたと考へられよう。

【解説】
各将軍の事績の他、誕生・生育儀礼・葬送儀礼、家格・軍事力・所領・鎌倉公方との関係など、将军に関するさまざまな事項を最新研究に基づき項目ごとにわかりやすく解説。武家と公家に君臨した将军の実像を丸裸に。俗人・僧侶・女性まで掲載した将军子弟辞典や史料紹介など付録も充実。



各将軍の事績の他、誕生・生育儀礼・葬送儀礼、家格・軍事力・所領・鎌倉公方との関係など、将军に関するさまざまな事項を最新研究に基づき項目ごとにわかりやすく解説。武家と公家に君臨した将军の実像を丸裸に。俗人・僧侶・女性まで掲載した将军子弟辞典や史料紹介など付録も充実。

価格	2970円（税込）
刊行日	2022年1月
編者	木下昌規・久水俊和
裁量	四六判・並製 340ページ



日本史上類を見ない、強烈な個性の将軍たち!! 頻発する将軍の暗殺、更迭、京都からの追放。波瀾万丈な将軍たちの生涯とは裏腹に、なぜ室町幕府は200年以上も続いたのか? 数々のエピソードから



各将軍の人間性に迫り、新たな時代像を切りひらく! 付録として花押一覧、墓所・供養塔一覧を掲載。

【解説】

「將軍殺害」という未曾有の大事件となつた永禄の変にいたる三好氏との対立、協調、決裂の過程をていねいに整理し、足利義輝の激動の生涯のみならず、末期室町府の内実も活写する。将軍権力が最も動搖した時代に、義輝が目指した新しい統治体制とは!? 気鋭の研究者が義輝の魅力を引き出す。

足利市・法楽寺で 浄土式庭園の遺構を確認



法楽寺跡園池遺構等確認調査第4年次の結果について

1 調査場所
足利市本城三丁目2075
2067

2 調査期間

令和3年10月4日～
令和4年1月21日

3 調査面積

約50m²

4 遺跡の立地と環境

法楽寺は、建長元年（1249）源姓足利氏三代目の義氏

（第1図）が創建した足利氏ゆかりの寺院で、織姫山の東山麓に所在しています。天文、万延年間の二度の火災によって、当時の伽藍はすでに焼失していますが、かつては父義兼開基の権崎寺同様、広大な園池をもつ浄土庭園が広がる寺院であったとされます。地形から行基平の東麓部に主要堂塔が建ち、その前面（東側）に園池（阿弥陀が池）が広がっていたものと思われ、その範囲は東西約450m、

南北約200mに及ぶと推定されます。

※前澤輝政氏は『足利義氏と法楽寺』（S52）の中で「法楽寺の四至と地割想定図」を、さらに『改訂新版 足利の歴史』（H21）の中で「法楽寺浄土庭園推定図」を掲載しています（第2図）。



第1図 紙本著色 足利義氏像（鑑阿寺蔵）

5 調査に至る経緯および目的

これまで法楽寺境内を含めた周辺の発掘調査等の実績はなく、園池の場所や範囲についても詳細は不明な状況でしたが、平成29年度に実施した試掘調査の結果、

果、法楽寺東前面において園池堆積土が確認されたことから、本市を代表する文化遺産である法楽寺跡の保護を図っていくために、平成30年度より園池周辺の遺構の情報を得る目的で確認調査を実施しています（第2図）。令和3年度は、戦前まで池が残っていたとされる参道入り口の南東に位置する宅地の庭先（A地点）およびその西側約30mの現駐車場（B地点）について、園池および園池周辺の遺構の有無について確認を行いました。

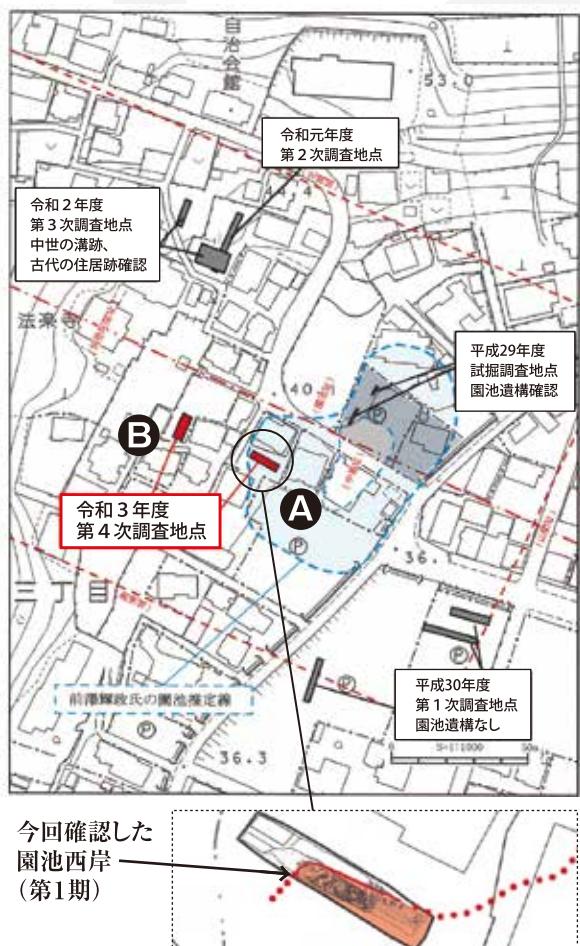
6 調査の方法

A地点に幅約2m、長さ約11mの東西方向のAトレーンチ、B地点に幅約2・5m、長さ約7・5mの南北方向のBトレーンチを設定し遺構の有無を確認しました。

調査の結果、法楽寺東側に広がっていたとされる園池遺構の一部が確認されました。園池は少なくとも2回の浚渫（しゅんせつ）がみられ、3時期の変遷が辿れます。

7 調査結果 【A地点】

第2図 調査地位置図





第1期（創建期から15世紀代まで）

A トレンチの東側および西側のサブトレンチから、園池西岸の一部が確認されました。

西側のサブトレンチでは、トレンチ南壁付近で西から東へ掘り込まれた状態の地山が検出され、さらに東側にむかって大きく曲がっていることが分かりました（写真1）。地山は表面に鉄分が多く付着し、小粒の角礫が多く混じる橙褐色粘性土で、検出した部分で高低差約1mをはかり、傾斜角40度～50度とやや急に掘り込まっていることから、当初の園池西岸の掘り込みと考えられます。また地山上面には5～20cm大のチャートの角礫が数点検出され、地山下層付近の堆積土中に角礫や30cm大のやや大きめのチャートが含まれることから、元々は地山上面に洲浜（すはま）が敷かれていたものの、岸の傾斜が急であつたためにその後の洪水等の影響によって多くの洲浜が剥がれ落ちてしまつたものと推定されます。



写真1 現地説明会の様子 (西側サブトレンチの説明)

園池堆積土中からは中世の瓦、かわらけ、在地系土器、砥石のかわらけ、在地系土器、砥石のほか瀬戸の破片などが出土しました。

は剥落した洲浜とみられる角礫が多く見られることから、第1期の洲浜と考えられます。また

この洲浜は西側サブトレンチと繋がるものと捉えられることから、園池西岸において東へ大きく張り出す部分があることが判明しました。この張出し部はほぼ直線状にさらに東側へ続いていくものと考えられます。東側の園池堆積土中からも中世のかわらけ、素焼き土器のほか常滑（とこなめ）の破片といった中世の遺物が出土しています。

第2期（15世紀以降から江戸時代まで）

A トレンチ中央の東西約4m、南北約1・5mの範囲から、第2期の洲浜が確認されました。

一方、東側のサブトレンチでは、トレンチの主軸とほぼ並行するよう東西約3mの範囲で、北から南へ掘り込まれた状態の地山が検出され、地山上面にはややしまつた暗灰色粘性土上に貼り付けられたとみられる5～15cm大のチャートの角礫が所々検出されました。これらは西側サブトレンチと同様に地山の傾斜がやや急であること、下層に



写真2 第1期の洲浜と第2期の洲浜 (手前が東)

洲浜を形成しています（写真2）。今回検出された洲浜は、張出しが成後も洪水等の影響により埋没した池を何度も浚渫したものと思われます。断面からは洲浜形成部の南側の洲浜で、第1期の洲浜と比べ傾斜が緩やかであることをから、第2期には張出し部が一回り大きくなつていたものと思われます。断面からは洲浜形

積土中からは、15世紀末～16世紀前半頃の五輪塔水輪のほか、15世紀以降の中世瓦、かわらけ、在地系土器、板碑片などが出土しています（写真3）。

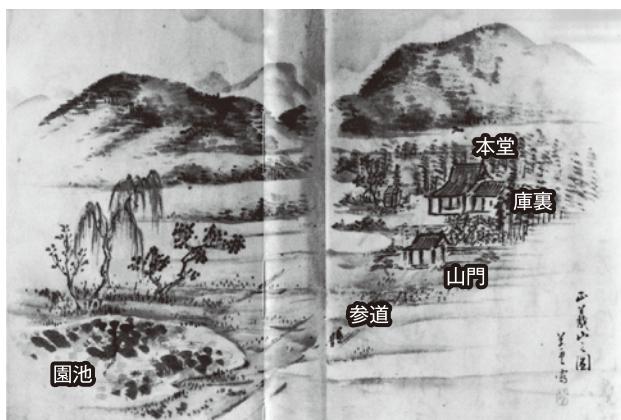


第3期（明治から昭和前半まで）

トレンチ南東部から東西約3・5m、南北約1・3mの範囲で池の最後の浚渫痕が検出されました。浚渫後に溜まつた粘土層は木屑や植物痕などを含むヘドロ状の土で、中からはガラスや銅線、近代陶磁器片、明治時代の半錢硬貨といつた遺物のほか、刺さつた状態の木杭数本とその付近から板材が数点出土しており、杭や板による護岸処理が施されていた可能性があります。幕末から明治初頭にかけ



写真3 第2期の洲浜面直上の遺物出土状況



第3図 田崎草雲筆 正義山之図

て描かれた草雲の絵図（第3図）によれば、池はすでに参道から南側のみとなつており、また明治28年の相場朋厚の「雑記」中には「弥陀の池は門外の畠中にあり、聊（いさ）か其形跡を存するのみ」とあることから、明治後半にはさらに小さくなり、庭園としての機能はすでに無く、周辺の水はけを考慮した調整池的機能をもつ溜め池であつた可能性が考えられます。明治以降、昭和5年の水道部の資料によれば池は直径3～4m程度の水た

まりとして描かれ、昭和13年の『足利考古図録』には草木が生い茂つた池の写真が掲載され、最終的には当時の住民の証言からA地点の池は戦時に埋め立てられ、畠になつたとされます。

【B地点】

調査の結果、近代以降の宅地造成によつて既に中世面は削平されていたものの、表土から約50cm下から掘立柱建物跡の柱穴の可能性を含むピット26基、焼土遺構1基、竪穴住居跡の可能性を持つ遺構1基および東西方向の溝跡1条が検出されました。これらの遺構の時期としては、古代の土師器および須恵器の破片が出土していることから古代以降のものと考えられます。

お、溝跡は第2、3次調査で検出した溝跡と主軸がほぼ一致しており、また法楽寺参道の主軸とも近いことから、法楽寺に関連した中世の溝跡の可能性が考えられます。

一方、B地点では明確な中世遺構は検出できなかつたものの、参道と同じ向きの区画溝の可能性的ある溝跡が新たに確認されたことで、前回の調査成果と合わせ、法楽寺境内の伽藍配置等を考える上で貴重な情報が得られたものと考えられます。



お悔やみ



当会の特別顧問足利義弘様におかれましては、令和3年12月26日にお亡くなりになられました。令和4年3月21日、等持院

市観光協会様にご参列いただきましたことをご報告いたします。故 足利義弘様におかれましては、ご生前、特別顧問として



編集後記



当会へのご助言を頂き、また、昨年の足利市で起きた林野火災の際には、街の状況を常に気にかけていたなど、今もお優しいお人柄が思い出されます。当会といたましても足利義弘様のご遺志を受け継ぎ、引き続き、足利氏の顕彰と会員相互の連携を深めていく所存です。

在りし日のお姿を偲びつつ、心からご冥福をお祈りいたします。

令和三年度総会（書面決議）では、多数の皆様より回答書をご提出いただきましてありがとうございました。

また、総会開催地の再延期に

あたり、京都府亀岡市商工観光課様、亀岡商工会議所様をはじめ関係機関の皆様には、多大なるご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

令和四年度総会につきましては、現時点で、令和4年10月27

日（木）、奉告祭及びエクスカーションは28日（金）の日程で、京都府亀岡市にて開催を予定しております。今後、新型コロナウイルスの感染拡大状況や社会情勢等によつては、オンライン（ウェブ開催）や書面決議等に変更させていただく場合もございます。詳細が決まりましたら、改めてお知らせいたします。皆様のご理解とご協力をお願ひいたします。

今後も引き続き会報やホームページにおいて、会員の皆様の近況等をご紹介していければと思いますので、ぜひご寄稿くださいますようお願いいたします。

新型コロナウイルスの一日も早い終息をお祈りいたします。



亀岡市 保津川下り